

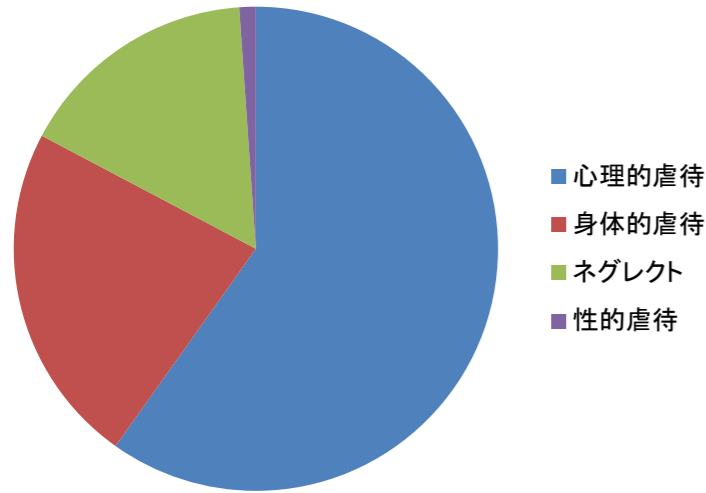
なう年報

特定非営利活動法人「子ども虐待防止センター・しずおか」



2024.4~2025.3

児童虐待 最多22万件



全国の児童相談所による2023年度の児童相談件数が前年度から1万666件(0.5%)増え、過去最多の22万5509件に上ったことが25日、厚生労働省と子ども家庭長のまとめで分かった。

現段階で統計開始から33年連続増。暴言等で心を傷つける心理的虐待が13万4948件と59.8%を占め、うち子どもの前で家族に暴力を振るう「面前だDV」が7万8914件だった。

三原じゅん子こども政策担当相は「非常に

重く受け止めている。核家族化や地域関係の稀薄化で子育ての困難に向き合わざるを得ない家庭が多いと考えられる。児相の体制強化を進めるとともに、虐待の予防や早期発見が肝要だ」と述べた。

虐待相談種別は、心理的虐待の他は身体的虐待が5万1623件(16.2%)、ネグレクト(育児放棄)が3万6465件(16.3%)、性的虐待が2473件(1.1%)だった。

虐待された子の年齢は3才が1万4423件で最も多い。全体の中で身体的虐待の割合は、年齢が上がるにつれて増える傾向がみられる。

相談経路は警察11万6649件(51.7%)、近隣・知人2万2112件(9.8%)、家族・親戚1万9196件(8.5%)、学校1万6583件(7.4%)の順で児童本人は3147件(1.4%)。

都道府県別(政令市・児相設置自治体を含まない)では、最多が東京で1万9488件、最少は鳥取で213件、静岡県は1961件、静岡市832件、浜松市761件だった。

虐待件数を巡っては自治体からの報告内容のうち、児相が対応した結果、虐待ではないと判断した事例などが含まれていることが分かり、修正報告を受けて再集計。23年度分を今回確定値として公表した。21年度以前の分も今後、数字が修正される可能性がある。

2025.3月 静岡新聞参照

毎年、毎年増え続ける児相における児童虐待相談対応件数、その影には実はDVという家庭内の問題が大きく関わっていることを見逃してはならない。DVの根底には、著しい人権感覚の欠如が横たわっている。相手を自分と対等の人格として尊重する気持ちを持ち合わせていないのだ。SNSの時代、人はさらに暴力的になってきているのでは？

浜松医大生 研修受入

令和6年度が始まったばかりの4月18日と25日に、あわただしい中で医大生の研修を実施した。例年は喜んで引き受けてくださる児相も、職員の入替で忙しく、研修真っ盛りの時期であるため断られた。その分、本会の受け持ち時間が増え充実させることができた。医大生にとっては児相の講義も大切。



2施設でオレンジリボン活動

“学園祭”番町市民活動センター

“あざれあ”男女共同参画センター



10月19日は番町学園祭の前日準備。20日は会員の青野さんも駆けつけてくださり、オレンジリボンでハートはうめつくされた。他のブースの参加者との交流もあり学園祭は成功裡に終わった。

翌週の26日が「あざれあメッセ2024」9時に集合して10時の開会に間に合わせた。こちらは参加者が年々減っている印象。わが家族も来なかった。